

## ～今月の花木～



エゴノキ 野茉莉

エゴノキ科・落葉小高木・日本各地に分布

身近な雑木林などで、よく見られる。釣鐘状の白い花を下向きに沢山つけ、庭木にされることも多い。



身近な植栽環境は管理作業により安全性や景観が向上する(ケヤキの街路樹)

# 植栽管理

春から秋にかけては多くの草木が伸び、除草や芝刈り、剪定などの作業が増える時期でもあり、植栽管理の目的を改めて確認したいと思います。

私たちの生活・活動する場は意識・無意識に関わらず多くの植栽(植物)と接しており、様々な恩恵を受けている半面、時に不快感や人的・物的被害を受ける事があります。

感覚的なものとして季節の花々や新緑などを見て気持ちが良い、安らぐといった気持ちになる、草木がボウボウでお化け屋敷みたいで気味が悪くなるという具合があります。

実証的には緑陰による日照や高温の軽減、大気の浄化や二酸化炭素の固定など地球環境への貢献などもあれば、枯枝の落枝や倒木による被害、大量の害虫発生による植栽自体の被害や害虫等の種類によっては人がかぶれる等の人的被害もあります。

造花や人工芝でもない限り植栽は季節により生長・変化するものですから良好な植栽環境を維持するには管理作業は不可欠です。伸びたらから切る・刈るといった作業が多く、毎年同じような作業の繰り返しですが、時折今まで見かけなかった病虫害の発生や、台風や大雪など気象害による倒木の処理などイレギュラーな事案も発生します。年間を通じた基本的な植栽管理作業の内容と時期は裏面の表をご覧ください。

植栽管理の基本は先ず見ることです。樹木なら根元から枝先まで異常など植栽そのものの他に周辺環境に悪影響はないかなどを観察して、作業計画を考えます。相手は生長するものなので、変化を先取りした処置も大切です。

## ナラ枯れ

コナラやシラカシなど、ナラ類、シイ・カシ類の樹木にカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌が入ることで、菌の作用により樹木の通水機能が失われ、急速に葉が赤褐色に変色し枯死する伝染病です。東京近郊では昨年夏頃から、急速に被害が拡大しています。



今まで青々としていた樹木の葉が夏ごろ急に赤褐色に変色して枯れてしまう。写真はナラ枯れになったコナラ。紅葉しているわけではない。



大量のカシノナガキクイムシに被害された樹木の根元や幹の穿孔穴からは、大量のフラス(木くず)が出て、被害木を確認する際の目印となる。

## マツ枯れ

マツ材線虫病とも呼ばれ、松くい虫(マツノマダラカミキリ)によってマツの樹体内に侵入したマツノザイセンチュウが引き起こすマツを枯死させる伝染病です。何十年も前から流行っており各地で対策もされていますが中々終息しない、しぶとい伝染病です。



写真左のマツのように葉が茶褐色に変色し枯れたマツを救命することは出来ない。枯死したマツ内には松くい虫の幼虫がいるので、伐採駆除が必要。



マツ枯防止策は様々あるが、市街地のマツには殺線虫剤を樹冠注入し予防する方法が近隣への環境被害も無く効果が高い。7年効果が持続する薬剤もある。

## クビアカ

外来種のクビアカツヤカミキリ(略称クビアカ)のイモムシ型の幼虫がサクラ、ウメ、モモなどの樹体内を2～3年にわたり穿孔食害することにより、樹体内の養水分の移動が阻害され樹木が衰弱する虫害です。ここ数年、関東地方でも被害が出ています。



在来種のカミキリ虫に比べ繁殖力が旺盛で、被害木からは幼虫が食い荒らした挽き肉状の大量のフラス(木くず)が出ている。穿孔穴への薬剤注入は有効。



成虫は見た目がカッコイイ?からといって飼育してはいけない。特定外来生物に指定されている。もし見つけたら、その場で捕殺するのが一番である。

## 病害虫被害 ビック3

こちらの事例は樹齢を重ね大径木となった樹木が、早くも数週間で衰弱し、枯死する事もある、今、関東地方でも問題となっている病虫害被害です

# 植栽管理年間作業目安表

作業時期は一般的な目安です。植栽の種類や気候、目的により変わりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

適期 ←→ 多少よい時期 ←.....→

作業内容\時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
<b>樹木管理</b>														
常緑樹剪定		常緑樹は新芽が落ち着いてからがよい							常緑樹は寒い時期はよくない					
落葉樹剪定	花木は花芽形成前に剪定		夏期剪定(軽剪定)			落葉前だと落葉清掃が楽/冬期剪定(基本剪定)								
針葉樹剪定	針葉樹は時期によらず強剪定に弱いものが多い													
植込みや生垣刈込		花木は花芽形成前に剪定				花芽形成後の花木は、とびを取る程度に軽く刈込む								
植込み地除草														
施肥	春の芽だし肥や花後のお礼肥(速効性肥料)						寒肥は特に有効(遅効性肥料)							
病害虫防除	チャドクガ(ツバキ類)注意				サクラ、ツバキ類注意		冬季にはマシン油乳剤、石灰硫黄合剤が散布できる							
マツ手入れ	みどり摘み									もみ上げ(古葉落とし)、透かし剪定				
マツ枯れ防止	枯マツは4月までに伐採が特に有効										マツ枯れ予防の殺線虫剤の樹幹注入時期			
ナラ枯れ防止	殺菌剤の注入や資材被覆などの処置						枯死木は春先のキクイムシ成虫脱出前に伐採等処理							
<b>芝生管理</b>	※冬に休眠(冬枯れ)する、野芝や高麗芝などの日本芝の場合													
芝刈り	月1回		月2回		月1回(11月で刈り止め)									
除草剤散布							冬雑草発芽前						夏雑草発芽前	
施肥	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→													
手取り除草													冬雑草は目立つので取りやすい	
芝張り(補植含む)	←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→													
<b>裸地・そのた管理</b>														
草刈り・除草	最低年3~4回は行いたい													
落ち葉はき	新芽が出た後の常緑樹						落葉樹							
樹木点検	枯枝や危険木の早期発見		台風被害の予想点検			台風後の被害点検			大雪後の被害点検					



幹への粘着シート被覆例



伐採した幹と切株に殺虫剤を散布後にシートを覆う「くん蒸」処理状況



殺菌剤の樹幹注入例

ナラ枯れ対策の手法と留意点

枯死した被害樹木は伐採するのが一般的ですが、被害木の材内や切株にカシノナガキクイムの幼虫がいるため、翌年6月頃にナラ菌を持った成虫が羽化脱出する前に処理するのが望ましいです。伐採木は放置するとナラ枯れが拡散する原因となるため、粉碎や焼却、くん蒸処理が求められます。

被害の防止には伐採した被害木の適切な処理と共に、予防措置として、キクイムシの飛来や拡散を防止するための樹木への資材被覆や粘着シート貼付、殺虫剤散布があります。また、ナラ菌の繁殖を抑えるため、保全したい健全木への殺菌剤の樹幹注入などがあります。

昨夏から東京近郊でもナラ枯れが顕著に見られるため、今年も被害拡大が懸念されます。

ナラ枯れ対策の手法と留意点